

常勤医 充実が必要

病理診断

医療機関ごとの治療実績などを紹介する「病院の実力」。今回は「病理診断」を取り上げる。手術中に患者から摘出した細胞や

組織をすくって調べ、腫瘍が悪性かどうかなどを診断し、治療方針などを決める「術中迅速診」を中心に、姫路中央病院（姫路市）の小林省二病理診断科長（72）に聞いた。

病院の 実力

兵庫編38

病理診断の重要性については「病理医がいなければ暗闇で手術をしているのと同じ」と言われている。当病院では、術中迅速診を行っており、手術中に患者から摘出された検体を瞬間冷凍後にスライスして顕微鏡で病巣を観察し、診断する。所要時間は約15分。手術中に患者の腫瘍が悪性か良悪性かなどを見極め、病巣の進行具合を

姫路中央病院

小林 省二病理診断科長



「病巣の性質を見極めて治療方針を示す病理医の役割は大きい」と話す小林科長（姫路市の姫路中央病院で）

正確に把握することで、切除する範囲や化学療法の可否などを正確に判断することができる。例えば乳がんの場合、乳房の不必要な切除や再手術をなくすることができるので、患者の負担軽減につながる。

術中迅速診で重要なのは、外科などの担当医と病理医の綿密なコミュニケーション。病理診断で検査しなければ病巣の性質は分からないため、病理医による診断の結果は、その後の手術や治療方針に大きな影響を与える。客観的で正確な情報を伝えるためにも、術前、術後の話し合いは欠かすことができない。

2005年4月に病理診断センターを設立した当病院では、地域医療向上のため、同年9月から病理医のいない姫路市や近隣自治体

にある7医療施設から病理診断業務を受託している。依頼を受けた1、2日後には、検体についての診断報告ができる態勢になっている。依頼件数は05年度の141件から、09年度は1551件と10倍以上に増加した。

需要が高まる一方で、術中迅速診は、医師同士の意思疎通が重要なことや病理診断センターの人員に余裕がないため、当病院の患者のみに限られているのが現状。県内には病理医が84人いるが、常勤している医療施設は21施設のみで、決して充実しているとは言えない状況だ。

多くの施設では、大学病院などからパートタイムで病理医の派遣を受けて術中迅速診を行っている。各専門医が病理医と連携を深めるために、日常的に討論や検討会などが行える環境が理想と言える。病理診断を充実させるには、各医療施設に病理医を1人以上、常勤で配置することが望ましい。

患者に直接説明増加

主な病院の治療実績をまとめた「病院の実力」。今回は、検査や手術で摘出したがんなどの病巣を顕微鏡を使って診断する「病理診断」と病理医を特集する。

調査では、対象を日本病理学会の認定・登録708施設に限ったため、回答施設の9割が常勤の病理医を置いていた。ただ、全国の

一般病院7600施設に対し、病院に勤務する病理医の数は2000人足らず。常勤の病理医が不在の施設の方が多い。

病理医は通常の病理診断のほか、手術中がんに悪性度や広がりなどを調べる「術中迅速診」や、亡くなった患者の死因や治療効果を調べる病理解剖も担う。症例検討会に参加し、医師

や看護師らと共に治療方針を話し合うこともある。

最近では、がんの原因やどの薬が効くかを調べたり、がんの進行速度を予測したりする検査にもあたるなど、病理医の役割と重要性は増すばかりだ。

従来、患者が病理医と接する機会はほとんどなかった。それが今は、病理診断の結果を病理医が患者

に直接説明する施設も増え、全国調査では3割を超えた。この中には「病理外来」を開設する施設もあり、今後の広がりが予想される。

もっとも、こうした施設の多くは複数の常勤病理医を抱える。病理医が少なく余裕がないところでは、外来の体制を整えるのが難しいのが現状だ。

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

病院の実力「病理診断」

医療機関別2009年実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	常勤の病理医 (人)	術中迅速診 (件)	患者への説明
神戸大	13	685	C
兵庫医大	8	1009	
県立がんセ	6	1007	
神戸市立中央市民	4	830	
関西労災	3	434	
国・姫路	2	509	
姫路赤十字	2	267	
甲南	2	82	C
西神戸	1	683	
県立西宮	1	300	
県立尼崎	1	275	
明和	1	202	
新日鉄広畑	1	198	
神戸市立西市民	1	186	C
市立伊丹	1	183	C
公立豊岡	1	160	
近畿中央	1	160	C
西宮市立中央	1	152	
県立淡路	1	118	
国・神戸	1	101	
姫路中央	1	65	
赤穂市民	1	60	C
県立こども	1	54	
市立西脇	0	75	C
姫路聖マリア	0	54	
市立加西	0	29	
市立小野市民	0	19	

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター。「患者への説明」欄のCは「主治医の要請があった場合に説明」、空欄は「現時点では直接の説明はしていない」。